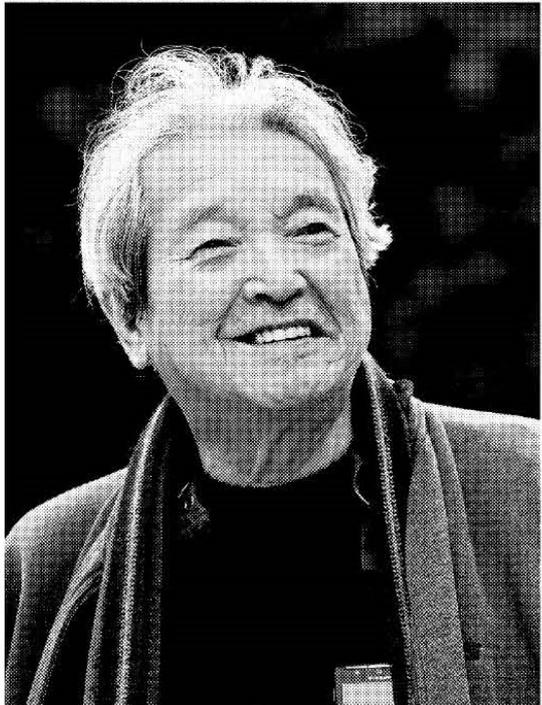




長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

192 絵本作家 安野光雅



在宅医というと高齢の人ばかりを診ているように思われがちですが、僕の在宅患者さんには赤ちゃんや子供ちゃん(関西では子供に「ちゃん」をつけません)もいます。コロナ禍のため外で遊べない分、絵本を読んでいる子もいます。絵本を通して、世界中を旅しているのです。

『旅の絵本』などで知られる世界的な絵本作家の安野光雅さんが、昨年12月24日に亡くなりました。享年94。死因は、肝硬変との発表です。

人生の最後に残った「誇り」

安野さんは、78歳の時に肺がんと診断され、放射線治療で完治させたそうです。がんになつてからの方がより仕事に意欲的になつたといいます。

肺がんが寛解した後の産経新聞のインタビューでは、こんなことを話されていました。

「死ぬ直前に残るものは何だろうと考えて、自分の中にある見栄や虚栄心、劣等感をほごすることを考えてみました。名を残すなんてことも煩わしくありません。いらぬものを削ぎ落してみたときに、最後に残るのが「誇り」ではないかと思えました。誰もがそうなるとは限らないけど、私の場合、その誇りを感じることで、死に直面する自分がイメージできるようになり、病気に対する恐怖がなくなつたのです」

人生を一つの旅に例えるならば、往路は自分に何かを足していく道行ですが、復路は、削ぎ落とすための道行かもしれません。そして最後に残るものは「誇り」。真の意味での「尊厳」を安野さんが教えてくれました。

による肝炎、または長期にわたる飲酒からなるアルコール性肝炎や、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)が、徐々に進行した最終形が肝硬変です。まれに免疫異常による肝硬変の人もあります。以前はウイルス性の人が圧倒的でしたが、昨今は非ウイルス性の肝硬変が増えています。

肝硬変とはその名の通り、肝臓という人体最大の臓器の線維が増えて硬くなり、機能が低下した病態です。わが国の患者数は40万〜50万人で、年間の死亡者数は約1万7000人ですが、肝硬変から肝臓がんに移行して亡くなる人がたくさんおられます。

B型およびC型肝炎ウイルス